
社会分科会

I 研究のあゆみ

4月18日(木)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
6月6日(木)	研究計画の検討	【教育館】
5月下旬～6月下旬	全体での会は開かなかったものの、個別に指導	
8月28日(水)	レポートの検討	【教育館】
9月21日(土)	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

社会的事象が自分の生活と関わっていることに気付かせるために、普段食べているもの、身近にあるスーパーマーケットや駅等、自分の地域にあるものを教材として取り上げて追究したり、考えを深めたりする実践が報告された。また、子どもが追究してきたことを学級全体で共有したり、これからの社会について考えたりするという協働的な学びを意識した実践も多く報告された。

協議の中では、夢中になって探究できるようにするために、社会との関わりを実感できるように教材化に取り組むことや、自分事として考えることができるような学習活動の工夫や自分の考えをまとめたり、深めたりできるような学習シートや思考ツールの活用方法等が話題となった。

III 今後に残された課題

- 社会的事象を自分事として捉えることができるよう、実際に出掛けたり、出会ったりする中で、子どもが疑問をもち、追究意欲を引き出すことができるような教材化や学習活動を工夫すること。
- 子どもが主体的に追究活動に取り組むことができるように、学習問題や学習計画を設定し、見通しをもつことができるように工夫すること。
- 社会が抱える課題を把握して、その解決について自分の考えを深めることができるようにするには、学習活動をどのように工夫するとよいかということ。